

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901597		
法人名	医療法人社団 春光台クリニック		
事業所名	春光台クリニック グループホーム		
所在地	北海道旭川市春光台3条3丁目5-32		
自己評価作成日	平成25年10月31日	評価結果市町村受理日	平成26年11月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0172901597-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・理念(楽しく笑いある毎日を過せるように)を基に、職員が笑顔で心掛けて接している。また、行事の度に入居者・職員が共に仮装を行い、一緒に楽しめるような雰囲気作りをしたり、職員がひよっとと踊りや時代劇の寸劇をする等し、笑いある生活が送れるよう心掛けている。 ・夏祭りは地域住民の参加も呼びかけ、ゲーム大会、抽選会、歌謡ショー、隣の保育園児の太鼓、近隣小学校の吹奏楽など入居者・家族・地域の人達皆が楽しめるようなお祭りを毎年開催している。 ・母体がクリニックの為、24時間体制で医療面が充実、入居者・家族・職員共に安心して居る。 ・献立を決めていない為、その日に食べたい物を入居者から聞き、可能な限り提供している。又、20代～60代までの様々な年代の職員が調理しており、和洋折衷ハリエーション豊かな食事を提供している。 ・近くに公民館、公園、スーパー等があり、保育園からは子供たちの声が聞こえてくる環境にある。 ・室内の清潔を心掛けており、また匂いに対しても十分な配慮を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「春光台クリニック グループホーム」はバス停から徒歩5分ほどの住宅地に立地し、隣接している保育園や近くに公園、スーパー、公民館などがあり自然や生活環境に恵まれている。中庭に面して配置した2ユニットの建物内は吹き抜けの天窓から光が注がれて心地よく、木を基調にした共用空間は清潔に整頓されている。母体のクリニックが近隣に開設して10年を経過した当事業所は医療面の充実とともに、年4回の避難訓練を実施し災害時にクリニックの職員や近くに住む職員が駆けつける体制を整えている。利用者は地域の夏祭りに参加し、事業所の行事に保育園児や小学校児童が来訪するなど交流の機会を継続して行っている。事業所内ではマニュアルや書類を整備し、内外の研修で学ぶ機会も多く質の高いケアを実践している。利用者との会話や家族の意向を取り入れて全職員で介護計画を作成し、個別の意向や状態に合わせて温かなケアを行っている。職員は理念にある「楽しく、笑いのある暮らし」を日々意識し、個々の外出支援や利用者の役割を見つけ出し、その人らしい暮らし方を丁寧に支えている。家族的な雰囲気の中で利用者は中庭や屋外でお茶や日光浴楽しみ、生き生きと暮らしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(参考館アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壺番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で話し合って作成した事業所独自の理念があり、皆の目にふれる玄関に掲示。また、携帯用に印刷した理念を職員に配布し、時々それを見る事で反省したり、意識付けの材料となっている。パンフレットや夏祭の掲示物に掲載しており、周知されるよう努力している。	理念の項目に「家族や地域の方とのふれあいを持つこと」を盛り込み、行事計画の際に意識して内容を工夫している。入社時に理念を説明し、職員は携帯用に印刷した理念や玄関に掲示している内容を確認してケアにつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、町内のお祭りや廃品回収などに参加している。公民館の中の図書室を利用している。隣接する保育園とは、交流も深く、GHの行事に招いたり保育園の発表会や運動会の見学に行っている。小学校の吹奏楽も毎年、夏祭りに参加している。近所の方が野菜などを持ってきてくれる。	地域のお祭りに車椅子使用の方も一緒に参加する一方、事業所の夏祭り、クリスマス、七夕等の行事に保育園や小学校の子どもたちの参加も得て住民と相互に交流している。近所や家族から野菜の差し入れがあり、漬物などを作り食卓に添えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談や施設見学を行っている。介護職員初任者研修の実習生を受け入れており、認知症ケアについて指導している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域の方に呼び掛け、定期的開催している。一緒に行事やレク、食事に参加してもらい、その意図を説明する事でGHの取組を知ってもらい、入居者や職員と交流を図る場としている。	運営推進会議を定期的開催し、外部評価の結果や行事などの報告の他、感染症や食事をテーマにミニ勉強会も取り入れている。1~4名の家族参加があり、今後は全家族に議事録の送付を検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問や疑問点があると、市の担当者や地域包括に確認するなど、協力を得ており、内容は記録に残している。運営推進会議の報告書を提出する事で、日頃のGHの取り組みについて伝えている。管理者は包括研修部会に属している。	消防署の意見を参考に災害時のマニュアルを作成している。主に介護高齢課の各担当者に介護認定や制度について相談し、内容を記録化している。管理者は包括研修部会の役員になっており、研修内容を記録にしてケアに役立てている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する内部研修を、毎年行い、拘束にあたる行為について、理解を深めている。施錠する事で起きるリスクを考え、玄関に人感センサーを設置し、施錠しない取組をしている。夜間や見守りが行き届かない時間、入居者の状態が落ち着かない時などには必要最低限の施錠としている。施錠についての必要性は、家族にもその都度説明し理解を得ている。万が一離設者が出た場合は春光台SOS安心ネットワークを利用出来る体制を整えている。	内部研修で、事例を基に禁止の具体的な行為を読み返し理解を深めている。また禁止語を使わないように指導し、気が付いた時は注意している。日中は内玄関のセンサーで出入りを把握し、外に出たいときは様子を見て行動を共にしている。安全面から短時間施錠することもあるが事例は少ない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を毎年行い、マニュアルを整備している。日常的なコミュニケーションの中で、職員や管理者は、相手の不安・疑問・ストレスが無いかを察知したり、気軽に相談できるような雰囲気作りをし、虐待に至らないような環境を作っている。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壱番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加し、概要は把握している。支援が必要な方がいない為制度を活用した事が無く、詳細などわからない事がある為、必要時には包括と連携を取れる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り、一項目ずつ説明し、質問・疑問点があればその場で答えている。変更があった場合には、変更理由と共に内容を説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族交流会の中で、質疑応答の時間を設けている。又、直接事業所に言いにくい事は、家族の意見として表出できるよう、家族だけで話し合う時間が必要かどうか確認している。家族が抱えた不安・疑問などは、普段から話しやすい雰囲気を作り聞き出すよう努めている。苦情相談窓口を重要事項説明書に記載し、苦情があった場合は意見を反映できるよう苦情処理対応ファイルに記載している。	「家族交流会」に、ほぼ全家族の参加を得て意見を交換している。来訪時には率直な意向や要望などを聴くことが多く、意見などは「家族の記録」で個別に記録している。内容によって合同のミーティングやミニカンファレンスで話し合い、ケアや運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の会議や、必要時、話し合いの場を設けており、職員の意見や提案を、管理者は代表者に伝え、反映させている。	ユニット合同会議に参加できない職員の意見を事前に聞き取り、また各ユニットでも不定期にミニカンファレンスを持ち、全職員の意見が現場に活かされている。必要時に管理者は個人面談を行い、新人職員には定期的な面談で指導や相談に乗っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給や、年2回の賞与がある。勤務希望に添った勤務表の作成や体調や家族状況に応じた体制をとっている。介護福祉士の資格受験料の補助を行っている。子育て中の職員は夜勤などを免除し、その時その人に合わせた勤務条件を考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度は内部研修を行っている。また、外部研修への参加も促し、参加できるよう勤務調整をしている。外部研修後は、報告会を兼ね内部研修の機会としている。研修参加者は研修記録を作成し、全職員が周知できるようにしている。各職員の力量に見合う研修があれば指名し、勤務として参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は居宅支援事業所等連絡協議会、包括の研修部会に所属し相談などできる関係性を構築している。職員は外部研修を通じて、同業者と交流する機会がある。また他GHとお互いの運営推進会議に参加する事で、参考になる部分もあり、質の向上に繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(巻番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に、本人に施設見学に来て頂き、和やかに馴染めるよう努め、本人の口から不安な事や困っている事を聞き出すようにしている。話を聞き、信頼関係を作れるよう接する事で、不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談では、話しやすい雰囲気となる様に心掛け、困っている事や不安が無いか聞きだし、家族の訴えを受け止めながら、安心できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの段階で、緊急性がある場合や主訴に応じて、他施設やサービスを案内している。また、申し込みには至らない場合も、介護相談として受け入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事をしたり、会話をしながら一緒に過ごす事で、本人の思いを共感するよう心掛けている。わからない事を教えてもらったり、時には利用者に甘えたりして、支え合う関係を築いている。労いの言葉を職員にかけてくれたり、帰り際には玄関までお見送りしてくれている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や毎月の通信にて生活の様子を伝え、情報の共有をしている。家族の役割分担として、入居者との外出や、職員では拒否する居室整理などもお願いしている。特変時や相談がある場合にはその都度連絡している。来訪が料金の支払い時だけにしないよう、行事の案内をし、参加を促している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族は日常的に来訪する方が多く、親戚や友人の方の来訪もある。会話が難しいなどの入居者には、職員が付き最近の様子を伝えている。固定電話の設置や携帯電話持参している方がおり、家族や姉妹の方と連絡を取っている。契約時に生活状況を可能な限り把握している。	数か月毎に知人が来訪し、利用者と一緒に外出することもある。同じ訪問理美容の利用で顔馴染みになっている。職員は個々に合った暮らし方を生活歴などから引き出し、利用者の生活スタイルを継続できるように支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の重さ・症状などで集団に溶け込めない場合でも職員が間に入り、同じ空間を共用できるよう配慮している。日々の言動から、個々の性格や入居者同士の関係性を把握し、よりよい関係でいられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壱番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、家族に運営推進会議や夏祭りの参加の声を掛け、実際に参加して頂いている。入院などで退去となった場合も、お見舞いに行くなどしている。草取りやボランティアにも協力してくれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や様子を個人記録や連絡ノートに残し、本人の希望や意向に近づけるようしている。困難な人は、家族の意見を大切にしたり、本人の表情を見逃さないようにしたりする事で、本人本位となる様に努めている。	状態の変化や計画を見直す際に独自のアセスメント表に新しい情報を追加し、本人の言葉や家族の意向を記録化している。その日の表情の違いを感じ取り、言葉に出来ない思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、個人情報保護についての説明・同意を得た上で、これまでの生活の仕方などを家族に記入してもらい、情報収集し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チェック表(食事、水分、排泄、血圧など)、個人記録(一日の過ごし方や様子、ケアプランの評価、睡眠など)で情報共有している。日誌には体調変化などを記録し、引継ぎを行い現状把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは職員が集まって行っており、ケアプランは担当者を置き、計画作成担当者と相談しながら作成している。個々の現状にあったケアプランを作成しており、本人・家族の意向を聞き、それに沿った生活が出来るよう計画している。	3か月毎の介護計画を見直す際に、計画作成担当者の下で、利用者担当者が中心にカンファレンスでモニタリング・評価を行い医療情報も参考に原案を作成している。分かりやすい書式の工夫で、介護計画に連動して日々の記録を行い、更に短期目標の変化なども記載できるように検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にケアプランを合わせた物を使用し、日々の様子を記入できるようにしている。気付いた事は連絡ノートにも記入し、情報共有の手段としている。それらも記録から情報を拾いまとめた支援経過があり、ケアプランの見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療法人ならではのサービスとして、緊急時に対応できるような頓服薬・点滴セット・心電計などを備えている。AEDを新たに設置し定期的に研修を受けている。気軽に医師やNS、PT、OTに相談できる体制がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	読書が好きな入居者は、公民館の図書館を利用し、本を借りている。万が一離設者が出たときに協力してもらえよう春光台の地域でネットワークがあり、加入している。(行政・施設・警察・地域住民などが加入)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、かかりつけ医の確認をし、密接に連携を取っている事から母体のクリニックを希望されている。専門医に受診の際は、家族や本人の希望を確認した上で、受診できるようにしている。	全員が母体クリニックを希望し、職員が通院同行している。専門的な他科受診の初診時には職員が同行し、その後の受診は基本的に家族が付き添い、必要時に医療情報を渡している。個々の受診経過を時系列で把握できるように検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壱番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回NSが来訪し、日常的な状態報告を行っている。業務日誌を毎日母体のクリニックにFAXし、NSがチェック、医師に報告・相談する事で、必要時の受診など素早い対応を取る事ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を持参し、GHでの生活の様子を伝えている。早期退院に向け定期的に面会に行き、状態を把握。仲の良い利用者の顔を見せる事で安心感を持って頂けるよう一緒にお見舞いに行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化などの指針について(ホームで出来る事・できない事を記載)説明し、その段階での家族の意向を聞いている。終末期が始まる際にも再度意思の確認を行い、同意を得てから介護・医療とチームを組み対応している。	常時点滴などの医療行為が必要な時は対応が難しい事を説明し、「重要事項説明書」で同意書を交わしている。本人・家族の意向に沿って、主治医と関係者で話し合いの基に看取りを行い、その際に看取りケアの同意書を得ている。ターミナルケアの経過も記録している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応できるようマニュアルと、慌てずに対応する為のチェック表を整備している。救命講習(心肺蘇生・AEDの使用について)を定期的に受講する体制がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難マニュアルがあり、火災についての避難訓練を行っている。地震・大雪などで孤立した場合に備え、食料や発電機を備えている。職員が地域に住んでおり、緊急時は駆けつけられるようにしている。(慣れ親しんでいる職員が来る事で、安心して避難に当たれる)母体のクリニックの職員にも、非常時に駆けつけてもらえるようお願いしており、クリニックを避難場所としている。	火災避難訓練に利用者も参加して自主訓練を年4回実施し、その中で2回は設備会社の協力で行っており、今後は消防署立会いでの訓練も考えている。緊急時には母体クリニックや職員で対応を万全にしているので、近隣住民との協力関係を積極的には働きかけていない。地震や雪害などの対応は今後の課題になっている。	自主訓練の中に地震なども想定し、避難場所、各居室、各ケアの対応など、訓練での安全確認を期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格やその時々々の場面に合わせた対応をしている。トイレ誘導時など、周囲の人に配慮しプライドが傷つかない様、言葉遣いや態度に気を付けている。個人情報記載された書類などは鍵のかかる事務所に保管している。個人情報保護の研修も行なっている。	個人情報保護の外部研修を受け、事業所内で認識を共有している。砕け過ぎた言葉遣いについては、新人には十分な教育を行い、古い職員には馴れ合いを戒め、現場での事例に対して直接指導している。個人情報の書類は事務所に保管し、作業中の書類の扱いにも十分な注意が払われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のメニュー、お茶の時間に何が飲みたいか等、自己決定できるよう選択肢を設けている。その時々々の様子で声掛けに工夫し、意見を引き出せるようにしている。選択が困難な方には、会話の中から趣向を聞きだし、表出するのが困難な方には、昔の好みを家族から聞き出し提供している。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壱番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の生活リズムを持ちつつ、お風呂、散歩、外出など出来る限り1人ひとりの希望に添えるよう柔軟に対応している。入居者の気分や体調に合わせて、作業やお手伝いをお願いしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の習慣・意向を大切にしながら、洋服のアドバイス、化粧の支援を行っている事で気分の向上を目指している。外出などの行事の際は、特に身だしなみに気を付ける事で、気分も上がっている様子。訪問美容の方と馴染みの関係が出来ており、本人の望む髪型にしてもらう事が出来ている。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壺番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材・GHで作った野菜を使用し、季節感を楽しんでいる。調理全般に利用者が関わっており、食べたい物を自分で作る楽しみにもなっている。楽しみの1つとして外食や出前等を取り入れている。介護食の方にも楽しんで食事して頂く為に、食器や盛り付けを工夫。職員も利用者と同じ食事をし、一緒に食事を楽しんでいる。	献立は調理マニュアルを基にその都度利用者の意見も取り入れながら立て、母体クリニックの管理栄養士による指導を受けている。自家菜園の収穫物、近隣からの差し入れ、出前、外食、野外食、利用者参加のおやつ作りなど、多彩な工夫で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量をチェック表に記入し、把握。栄養バランスについて、毎年管理栄養士よりアドバイスもらっている。水分を拒む方にはゼリーや、好みの物を提供する等している。嘔吐事・飲み込む事が困難な利用者には、その状態に合わせた形態に加工して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、昼食後には個別に介入し、磨き残した部分を介助。口腔ティッシュ、歯間ブラシ、舌ブラシを個々に合わせて使用。寝前には義歯を預かり洗浄・消毒を行っている。必要時、歯科往診を受けており、その際に相談にものってもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表利用し、排泄リズムを把握。トイレサインを見逃さないようにトイレでの排泄に繋げている。リハビリパンツや尿取りパッドを使用している方の排泄状況を検討して見直し、布パンツへ移行出来る様支援している。トイレの場所が分かりやすいように立体の標札を設置してある。	完全に自立している利用者は1/3程度であるが、排泄チェックは全員に行っている。入居時には用品の必要性を改めて検討し、用品業者によるアドバイスも活用して自立に向けての検討は常時行っている。声かけや、汚染下着の処置などについても羞恥心に配慮した工夫が行き届いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質のある食材や、乳製品・野菜ジュースを積極的に提供し、10時と15時のお茶の時間にはストレッチを取り入れ、自然排便を促がしている。排便困難な場合は、受診時に下剤調整の相談をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を取り入れながら、2～3日に1度の入浴が出来るように支援。拒否があればその意思も受容し、翌日に繰り越すなど柔軟に対応している。異性への羞恥心がある方には、同性職員が入浴介助している。シャワー浴の方でも身体が温まるように足浴やバスタオルで身体を包み、かけ湯を行なう等の工夫をしている。	各人の希望に応じて入浴日を決めているが、気の進まない利用者には早めに声をかけて促している。介助には本人の希望や羞恥心を考慮して、適任の職員や同性の職員を当てている。起立の難しい利用者は浴槽を避けてシャワーや足浴を行っている。職員との会話や入浴剤が楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じて家事や運動で活動量を上げ、適度な疲労感を感じる事で夜間の良眠に繋げている。体力に合わせた休息時間も設けており、食事の時間等も個別に対応している。自室の温湿度や寝具の調整をし、ゆっくり休めるように環境整備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報を保存し、いつでも確認できるようになっている。薬に変更があった場合は業務日誌に記載し、情報の共有としている。誤薬防止の為、薬をセットする段階で数人の職員が関わりチェックしている。飲み残しが無いよう、薬を飲み込むまで見守りし、服薬後の袋に薬が残っていないか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事を把握し、個々に合わせた作業を提供する事で、役割としている。外出・歌番組の鑑賞・畑仕事・編み物・書き物等個々の楽しみを把握し、提供している。毎週レクを行い利用者全体で楽しんでいる。パズルや塗り絵・雑誌や本など1人でも自由に楽しめる物を用意。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壺番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事を企画し、積極的に外出。冬でも月に1回は外出している。天気の良い日には、散歩やドライブに出掛け、「外の空気吸いたい」との希望があれば、外のベンチで会話やお茶を楽しむ等、臨機応変に対応している。外出が難しい方には散歩などで季節を感じられるよう支援している。家族との外出や外泊への支援をしている。	雪のない時期の晴天にはできるだけ、近くの公園や街路に散歩に出たり広い中庭でお茶を飲みながら日光浴を楽しんだりする。外食や祭りなどの催事、動物園などへの外出行事も年に何回か組まれている。冬期間は受診が貴重な外出の機会になるが、雪かき、雪だるま作りなどを楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の希望がある方には、家族と相談し少額程度所持し、家族と共に管理している。自己管理していない方にも、買い物時にホーム預かりの財布から支払えるよう、職員が側につきサポートしている。お小遣い帳へ記載し、そのコピーと領収書を家族に渡す事で、収支を明確にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全ての居室に電話回線が付いており、希望者は電話を設置して、なじみの人といつでも電話できる環境にある。本人の携帯電話を持参している人もいる。居室に電話を付けていなくても、希望時はホームの電話を使用できる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには大きな窓があり、日当たりが良く季節の花が咲く庭が見える。季節に合わせた飾り物(雛人形・鏡餅・クリスマス等)をすることで季節を感じられる雰囲気作りをしている。温湿度に気を配り、換気や暖房・エアコンで調節し、過ごしやすい環境にしている。見やすい時計や日めくりをかけている。	共用空間はいずれもゆったりとしたスペースがあり、明るく清潔で、不快なおもなく気持ちがいい。木を豊富に使った内装や、天窓からの明かりが快適である。季節の雰囲気を感じさせる壁装飾や、利用者手作りの作品も心を和ませる。温湿度が常時管理され、業務日誌に記録されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が自由に好きな所で過ごせるような空間を、数か所設けている。3人掛けのソファは、気の合った入居者同士が座り会話などを楽しんでいる。窓際には中庭が見える位置にソファを用意し、1人の時間を過ごせる空間も整備している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や小物を置いたり、家族の写真や仏壇・植木・自分で作った作品などを置き、居心地の良い空間を作っている。転倒に繋がるような配置は避けている。	利用者と職員で部屋の整理、掃除を行っており、よく磨かれた床を始め室内は清潔で、整理整頓がよく行き届いている。利用者の症状により差はあるが、テレビや家具、仏壇、人形や装飾品、本などが賑やかにしかも整然と配置され、生活の温かみがよく感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに分かりやすい目印を付けたり、衣類の引き出しにも「下着」「タオル」などと明記しスムーズに出し入れができるようになっている。歩行が不安定な人にはベッドに手すりを設置したり、包丁を上手く使えない方にはピーラーを使用してもらう等の工夫や、針仕事時には職員が糸通しする事で、本人が出来る事を活かせる様な支援をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901597		
法人名	医療法人社団 春光台クリニック		
事業所名	春光台クリニック グループホーム		
所在地	北海道旭川市春光台3条3丁目5-32		
自己評価作成日	平成25年10月31日	評価結果市町村受理日	平成26年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「菘番館ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0172901597-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年10月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(菘番館アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で話し合って作成した事業所独自の理念があり、皆の目にふれる玄関に掲示。また、携帯用に印刷した理念を職員に配布し、時々それを見る事で反省したり、意識付けの材料となっている。パンフレットや夏祭り掲示物にも理念を掲載し周知されるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入しており、町内のお祭りや、廃品回収などに参加している。隣接する保育園とは、交流も深く、GHの行事に招いたり保育園の発表会や運動会の見学に行っている。近所の方が野菜などを持ってきてくれる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談や施設見学を行っている。介護職員初任者研修の実習生を受け入れており、認知症ケアについて指導している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域の方に呼び掛け、定期的開催している。また、一緒に行事・レク・食事などに参加してもらい、その意図を説明する事でGHの取組を知ってもらい、入居者や職員と交流を図る場としている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問や疑問点があると、市の担当者や包括に確認するなど、協力を得ており内容は記録に残している。管理者は、包括研修部会委員に属している。運営推進会議の報告書を提出する事で、日頃のGHの取り組みについて伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する内部研修を毎年行い職員は再確認している。玄関センサーを設置し、普段は施錠をしない様にしており、職員が少ない時間帯や入居者の状態により危険が予測される場合のみ施錠している。転倒の危険が予測される入居者にはセンサーを使用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を年に一度行い、マニュアルを整備している。日常的に職員同士がコミュニケーションをとる事で、職員のストレスや不安・疑問が無いかを察知したり、気軽に相談できる環境を作っている。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	計画作成担当者が研修に参加し、概要を把握している。支援が必要な方がいない為制度を活用した事が無く、手続の仕方などわからない事がある為、必要時すぐに活用できるよう、日頃より包括等と連携を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り、一項目ずつ説明し、疑問点があればその場で答えている。改定時は理由と共にその都度説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族交流会にて、質疑応答時間を設けている。又、直接事業所に言いにくい事は、家族の意見として表出できるよう、家族だけで話合う時間が必要か確認している。日頃から家族が気軽に意見を言いやすいようコミュニケーションを取り、関係作りに努めている。重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、万が一苦情があった場合には記録に記入し、カンファレンスなどで話し合う場が設ける事ができる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のカンファレンスや、不定期のミニカンファレンスを利用し、必要時職員からの意見・提案などを聞き、業務改善に向けた話し合いを行い、必要時は代表者へ伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給や、年2回の賞与がある。勤務希望や体調面に配慮した勤務表の作成をしている。介護福祉士の資格受験料の補助を行っている。子育て中の職員は夜勤を免除するなど、その時その人に合わせた勤務条件を考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度は内部研修が行えるように考慮している。外部研修は、職員に直接声をかけ案内し、参加できるよう勤務調整などを行っている。また、各職員の力量に見合う研修があれば指名し、勤務として参加している。研修参加者は研修記録の記入と、必要時研修を報告する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は包括の研修部会に所属し、相談などができる関係性を構築している。外部研修などで、同業者と交流する機会がある。他GHとお互いの運営推進会議に参加する事で、参考になる部分もあり、質の向上に繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に、本人に施設見学して雰囲気を感じて頂き、面談にて本人の口から不安な事や困っている事を聞き出すようにしている。話を聞き、信頼関係を作れるよう接する事で、不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談では、困っている事や不安が無いか聞きだし、家族の訴えを受け止めながら、安心して話しやすい雰囲気となる様に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの段階で、本人と家族の重要視していることを見極め、緊急性がある場合は他施設やサービスを案内している。また、申し込みには至らない場合も、介護相談として受け入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事をしたり、会話をしながら一緒に過ごす時間を作る事で、本人の思いを共感するよう心掛けている。喜怒哀楽を共にし、わからない事を教えてもらったり、時には利用者者に甘えたりして、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信や来訪時にて生活の様子を伝えている。特変や緊急時は電話などで利用者の様子を伝え、情報を共有できるようにしている。「本人の希望時は、通いなれた美容室へ家族が連れて行く」等、家族の支援が必要な際はケアプランに載せ、共にケアしている事に理解を得ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時、生活状況を可能な限り把握している。これまでの関係が途切れないように、年賀状の投函などを支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の会う人同士を同じ食卓にする事で、安心感を持てるよう配慮している。状態により他の方と馴染む事が難しい方の隣には職員が付き、円滑な関係性を保てるよう配慮している。利用者が、他利用者に対して手伝いたいという気持ちを考慮して、危険が無い限りは見守りの元行ってもらっている。(顔を拭いたり、下膳をしたり)日々の言動から個々の性格や利用者同士の関係を把握し、よりよい関係を築けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、家族に運営推進会議や夏祭りの参加の声を掛け、参加して頂いている。入院などで退去となった場合も、お見舞いに行くなどしている。ボランティアや草取りに協力してもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや言葉などを個人記録や連絡ノートに記入し共有している。必要時には話し合い、思いに添えるよう支援内容を検討している。困難な方は、家族から過去の本人の暮らしぶりを聞いたり、表情から読み取るなどしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、個人情報保護についての説明・同意を得た上で、これまでの生活の仕方などを家族に記入してもらい、情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チェック表を使用し、食事・排泄・血圧などを記録・共有し、個人記録にて一日の生活を記録・把握している。体調変化時などは業務日誌・引継ぎなどにより情報を共有し現状を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聞き、それに沿った生活が出来るよう計画している。モニタリングには職員が参加し、そこで出た意見を、常勤者がまとめ、その後、計画作成担当者と一緒に介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にケアプランを合わせた物を使用し、日々の様子を記入できるようにしている。気付いたことは連絡ノートにも記入し、情報共有の手段としている。それらの記録から情報を拾いまとめた支援経過があり、ケアプラン見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療法人ならではのサービスとして、緊急時に対応できるような頓服薬・点滴セット・心電計などを備えている。また、いつでも医師・NS・PT・OTに気軽に相談できる環境にある。AEDを新たに設置し、定期的に研修を受けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	万が一離設者が出たときに協力してもらえるよう、春光台の地域でネットワークがあり、加入している。(行政・施設・警察・地域住民などが加入)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の確認をし、密接に連携を取っているという事から母体のクリニックを希望されている。必要時は家族や本人の希望を確認した上で、専門医の受診にも付き添っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師が来訪し、日常的な状態報告などを行っている。また、毎日の業務日誌をFAXにて看護師がチェックし医師に報告・相談する事で、受診するなどの素早い対応を取る事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を提出し、日常生活の様子を伝えている。入院中には面会に行き、病棟の看護師・PTから状態を聞いたり、家族からも様子を聞きながら退院に備えている。仲の良い利用者の顔を見せることで、安心感を持って頂けるよう、一緒にお見舞いに行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化などの指針について(ホームで出来る事出来ない事が記載)説明し、その段階での家族の意向を聞いている。終末期が始まる際にも再度意思の確認を行い、同意を得てから介護医療とチームを組み対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応できるようマニュアルを整備しており、急変時に慌てずに対応する為のチェック表を用意している。救命講習(心肺蘇生・AEDの使用方法)を定期的に受講する体制がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難・通報・消火訓練を実施し、その都度レポート提出し、実際の火災や次の訓練に繋がる体制を強化している。災害時の非常食を常備している。緊急時は地域に住む職員が協力要員となる事で、安心かつ素早い対応ができる。母体のクリニックの職員にも非常時に駆けつけてもらえるようお願いしており、クリニックを避難場所としている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格やその時々々の場面に合わせた声掛けをしている。トイレ誘導の際、大声で声掛ける事はしない等、言葉遣いや態度に気を付けている。個人情報に記載された書類などは鍵のかかる事務所に保管している。個人情報保護について内部研修している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中からその人の思いを引き出したり、選択肢を用意する事で自分の思いを表す事が出来るようにしている。(食事のメニューや飲み物を選んでもらう)言葉で意思表示することが難しい方には、表情などから汲み取るよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や気分に合わせて作業やお手伝いをお願いしている。外に出たい素振があれば、一緒に散歩に行っている。本人の希望や状態に合わせた、食事時間や起床・入床時間としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の意向をもとに、髪染めやパーマ・カットなど訪問理美容にて整髪している。外出や行事の際は、お洒落やお化粧を支援している。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事に合わせてたり、ホームの畑で収穫した物をメニューに取り入れている。楽しみの一つとして外食・出前を取り入れている。ゴマすり、テーブル拭き、食器の片づけ等、1人1人が出来る事を作業として取り入れている。介護食の方には、食器や盛り付けに配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎年、管理栄養士より栄養バランスのアドバイスもらっている。チェック表を使用し、一日の食事量・水分量が確認できる。個々の嚥下状態や咀嚼の状態に合わせてトロミやキザミ等で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをしており、昼食後には職員が全利用者の口腔ケアを、ガーゼや歯間ブラシなど個別に使用して行っている。誤嚥性肺炎になりやすい方には、毎食後に実施し予防に努めている。就寝前には義歯を預かり洗浄・消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や普段の様子などから、排泄リズムを把握し、トイレでの排泄につなげている。トイレ入り口には目立つように張り紙し、排泄失敗した際に自分で取りかえられるよう、自室に専用のかごを設置し定期的に回収している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や野菜ジュースを積極的に提供。毎日の運動や腹部マッサージを取り入れたり、食物繊維の多い食材を献立に組み込んでいる。排便困難な場合は、受診時に下剤調整の相談をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	羞恥心がある方には同性職員の介助としている。週に2回の入浴を基本としているが、拒否が見られる人には、職員を変えたり時間を空けてから声を掛ける、翌日に変更するなど柔軟に対応している。シャワー浴の方でも身体が温まるよう、脱衣場に電気ストーブや、足浴などで温めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態等に応じた家事や運動で活動量を上げ、夜間の安眠に繋げている。また、食事の時間等も個別に対応している。各居室に温度・湿度計を設置する事で快適な環境となる様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為、薬を服薬するまでに人を変えて6回以上チェックし、服薬時には飲み残しが無いように、口腔内を確認し、服薬後の袋に薬が残っていないか確認している。薬が変更になった場合は、業務日誌にて情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や畑作業・ドライブ・外食等で気分転換が出来るよう支援している。本人の得意なこと・やり慣れたことを日々の生活で活かしてもらい、短い時間でも意欲を持ってできるような支援をしている。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出(買い物・外食・ドライブ)を個別で行い、希望を取り入れながら満足感が得られるよう支援している。外出の難しい方には、散歩等で季節を感じられる様支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により小額入った財布を自己管理している方もいて、買い物時はその財布から支払っている。事業所でもお小遣いを管理しており、毎月家族にお小遣い帳のコピーを送付し、出し入れを明確にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全ての居室に電話回線が付いているが現在使用者は無く、電話使用の希望時は事業所の電話を使えるようにしている。手紙や年賀状も、職員が窓口になりやりとりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り物(雛人形・こいのぼり・七夕・クリスマス)をする事で、季節を感じられる雰囲気作りをしている。また、カレンダーも目に付きやすい場所に日めくりを掛けている。温湿度は温室時計を細目にチェックする事で、職員の体感だけで判断しないように注意している。台所からの調理のにおいがしたり、天窓からは日差しが入り、中庭の花がリビングから見えるようソファを配置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者がゲーム・テレビ・会話等ができるように配慮したソファの配置としている。時には1人で過ごす様に配慮した場所にソファを設置し、日光浴をしている方もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や仏壇・鏡台・植木などを置き、思い思いの環境にする事で、落ち着いて過ごせる様にしている。車いすを自走する方もいる為、室内の動線の確保をする事で、快適な室内となる様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには貼り紙をし、居室には表札を掛け分かりやすくしている。衣類の引き出しには何が入っているのか分かるように目印している。車いすを自走する方もいる為、安全なスペースの確保に努めている。日常生活の中でハサミや包丁を使用するときは見守りの元、安全に使用できる配慮をしている。歩行が不安定な方には、ベッドに手すりを設置している。		

目標達成計画

事業所名 春光台クリニック グループホーム

作成日：平成 26年 11月 12日

市町村受理日：平成 26年 11月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	現在の避難訓練では、火災を想定した場合のみで、地震やその他の災害に対する訓練が行われていない。	あらゆる災害を想定した安全対策(避難訓練含む)を確立し、職員への周知を行っていく。	① 災害の想定と、マニュアルの作成・周知 * 避難マニュアル * 非常時物品について ② 避難訓練の実施	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。